

## 男でも 女でも

笠間小学校五年 大森 凜香

私の家は父、母、兄と私の四人家族です。

母は私とお兄ちゃんにいろいろ手伝わせます。めんどうくさいなあと思つてやらない時もあります。母は「お母さんが子供のころはおじいちゃんはお仕事だけ、おばあちゃんはお仕事を手伝つていても家の事を全部やっていたんだよ。お母さんはおばあちゃんに何でもやつてもらつていたから大人になつてから何も出来なくて大変だったよ。今は男も女も関係なく好きな事が出来る時代になつてきたけれど、それは「男だから」「女だから」やらなくてもいいつて事がなくなつてきたつて事だよ。一つでも出来るようになるのはいい事だしうれしい事なんだからやつてみてよ」と言います。

お父さんも家の事は何も出来ない父親をみて育つたけれど、ごみ出しやお風呂そうじをやつてくれます。

私は料理の手伝いやせんたく物をたたんだり、お兄ちゃんはせんたく物をほしたりお

ふろそうじを手伝います。二人で草むしりもします。お母さんに「ありがとう」と喜んでもらえるやつて良かったなとうれしくなります。

すべての人が平等とは思わないけれど、きつと昔よりずっと男の人と女の人の差がなくなつてきていると思います。私が大人になつた時、世の中はもっと平等で自由になつていて、「男だから、男のくせに」「女だから、女のくせに」こんな言葉がなくなつていくかもしれません。

「男でも」「女でも」自分らしくいられる社会になるよう私も一つずつ出来る事を増やしていきたいと思います。

## 男のくせに 女のくせに

稲田中学校二年 河内 翔生

「男のくせに女の仕事が好き  
なんだから！」

台所に立つ祖父が邪魔なの  
か、いつも祖母は、小言のよ  
うに言っている。

のんびり仕事をするように  
なった祖父は、時間が出来る  
と庭の小さな畑で野菜を作り、  
収穫した野菜を材料に料理を  
するようになった。お得意は、  
ポテトサラダとカレー。レパ  
ートリーは少ないが、色々工  
夫して料理を楽しんでいるよ  
うだ。以前は、スーパーに行  
くことなどほとんどなかった  
祖父も今では、材料を買いに  
行く。うれしいことに、祖父  
ならではのおやつも買って来  
てくれる。

料理をすることは、健康、  
認知症予防に効果があると聞  
いたことがある。工程を考え  
ながら、何種類かの動作をす  
るので脳にとても良いそうだ。  
確かに、料理好きの祖母にし  
てみれば、自分の城をあらさ  
れているようで、ちよつと迷  
惑かもしれないけれど、祖父  
が料理をするようになって、  
食卓の会話も弾み、二人でス

ーパーに行ったり。時には、  
ケンカもしているけれど、何  
だか楽しそう。

祖母が、体調を崩したとき  
の祖父は、頼もしい。おかゆ  
を作ったり、スーパーに祖母  
の好きなものを買に行つた  
り。洗濯もする。「やるなあ。  
おじいちゃん。」

母が様子を見に行つても、  
「大丈夫そう。おじいちゃん、  
やってくれてたわ。」

昔は、男が台所に入るなん  
てことは、滅多になかったそ  
うだが、現在は、主夫も育メ  
ンもいる。家事の出来ない男  
なんて古すぎる。女性も社会  
で活躍している時代だ。男だ  
から女だからという枠を超え、  
家事育児は協力していくべき  
だと思う。僕も積極的に家事  
を手伝おう。素敵男子になろ  
う。そうすれば、女性の労働  
力率M字型カーブにも変化が  
現れ、働き盛りの女性の就業  
率も上がり、経済効果にもつ  
ながるだろう。  
皆で、協力しあいながら、未  
来の日本を変えていこうじゃ  
ないか。